



「青森へき地医療クリニカル・フェローシップ」へのご招待

弘前大学医学部附属病院
地域医療支援センター長 総合診療部長 加藤 博之

「青森県のへき地医療のために貢献したいが、そのための準備をどうしたら良いかわからない。へき地医療機関に赴任した後も不安」こんな方はいらっしゃいませんか。弘前大学医学部附属病院地域医療支援センターは、そのような方を全面的に応援する新しい制度を用意致しました。まず「青森へき地医療クリニカル・フェロー」として、弘前大学医学部附属病院および関連施設で1年間自由に研修しましょう。どの分野を研修するかは、今までのあなたのキャリアとあなたのご希望を尊重して、地域医療支援センターがご相談を承ります。研修期間中の身分と収入は弘前大学が保証致します。研修修了後は、県内のご希望のへき地拠点病院に勤務。この際弘前大学医学部附属病院とへき地拠点病院を結んで特別に設置する遠隔診療データ通信装置を用いて、判断に迷う症例等の相談を大学病院の専門家にすることができアフターケアも万全です。青森県へのUターンやIターンを考えておられる方、青森県内臨床研修病院での研修を修了予定の方、専門分野を変更してプライマリ・ケアを専攻したい方、本制度はこんな皆さんにぴったりです。意欲あふれる皆さんのご応募を心よりお待ちしております。



図-3

遠隔診療データ通信システム設置病院

平成17年度は大間病院と外ヶ浜中央病院へ遠隔診療データ通信システムの設置が決定しました。今後継続的に、機器の設置箇所を増やしていく予定です。

問い合わせ先

弘前大学医学部附属病院地域医療支援センター

〒036-8563 青森県弘前市本町53番地
TEL 0172-39-5161
FAX 0172-39-5189

E-mail: rmsc@cc.hirosaki-u.ac.jp
<http://www.med.hirosaki-u.ac.jp/hospital/region/>

弘前大学
広報誌
号外

ひろだい

医療人GP

このたび(平成17年9月13日)、文部科学省が選定・支援する教育支援プログラム「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム」(「医療人GP」)に本学医学部医学科が申請していたプログラムが採択されました。医師不足や医療過疎の問題を抱える地域の中にある本学として、是非、獲得したい支援プログラムでしたので、採択は大きな朗報です。



本年度新規発足の「医療人GP」には「へき地を含む地域医療を担う医療人養成」と「全人的医療を実現できる医師・歯科医師の養成」の2つテーマがあり、本学医学部医学科は前者の「へき地を含む地域医療をになう医療人養成」に応募しました。このプログラムへの応募にあたって医学部医学科では、早くに(平成16年11月)「医療人GP策定委員会」(委員長:泉井 亮 副医学科長)を立ち上げ、学内の意見の集約、青森県健康福祉部ならびに県医師会との意見交換を精力的に行い、特に青森県からは貴重な助言を得るとともに、本プログラムがスタートする場合の相互連携について了解を得ました。

今回採択された本学のプログラム(教育プログラム担当者:加藤博之総合診療部教授、卒後臨床研修センター長)の名称は「青森へき地医療クリニカル・フェローシップ——地域医療支援センターによる一貫サービスを基盤とする新教育プログラム——」です。その骨子は、へき地医療への意欲を持つ医師に対して本学附属病院に新たに設置する「地域医療支援センター」が、それぞれの応募者にあつた1年間の研修カリキュラムを作成し、これに基づいて本学附属病院や関連教育病院で研修することで、実際にへき地で通用する医療従事者を育成することです。さらに、へき地医療機関赴任後も先端的通信技術を用いた継続的支援を行う予定としており、いわば、「アフターケア付きへき地医療人養成システム」を確立することであると言えるでしょう。(図1、2参照)。さて、本学の「医療人GP」プログラムは、大学と地域が十分に議論し、真に地域のニーズに対応した積極的な構想としてできあがりしました。本プログラムを堅実に実行し、確実な成果を得ることで、社会の期待、特に青森県の地域医療の向上に大いに貢献することが期待されます。

1 事業の名称

弘前大学医学部附属病院地域医療支援センター
青森へき地医療クリニック・フェローシップ

—地域医療支援センターによる
 一貫サービスを基盤とする新教育プログラム—

事業推進責任者：加藤 博之
 (地域医療支援センター長、総合診療部長)

2 事業目的と特徴

「青森へき地医療クリニック・フェローシップ—地域医療支援センターによる一貫サービスを基盤とする新教育プログラム—」は、本学と医師不足や医療過疎の問題を抱える地域、特に青森県との相互連携を基に立案され、文部科学省平成17年度教育支援プログラム「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム」(「医療人GP」)に採択された事業です。

その内容は、①へき地医療への意欲を持つ医師に対して、本学附属病院に新たに設置された「地域医療支援センター」が、それぞれの応募者の経歴や希望をふまえた1年間の研修カリキュラムを作成し、これに基づいて本学附属病院や関連教育病院で研修することで、実際にへき地で通用する医療従事者を育成する(図1)、そしてさらに、②本学附属病院とへき地病院間に遠隔診療データ通信システムを設置し、へき地医療機関赴任後も、本システムを通じての相談に応じるなどの継続的支援を行う(図2)、の2点を柱とした、いわば「アフターケア付きへき地医療人養成システム」です。

このうち、研修期間中は、応募者はへき地医療機関への赴任前準備として一年間本学附属病院の非常勤医師となり、各人のそれまでのキャリアや希望に合わせて院内各診療科や関連教育病院をローテートし、プライマリケアやcommon diseaseを中心に臨床研修をする傍ら、遠隔診療データ通信システムの使用法や活用方法を習得します。研修修了後は、へき地医療機関に赴任しへき地医療を実践するとともに、遠隔診療データ通信システム使用にあたっての指導者として活躍していただくこととなります。

図-1

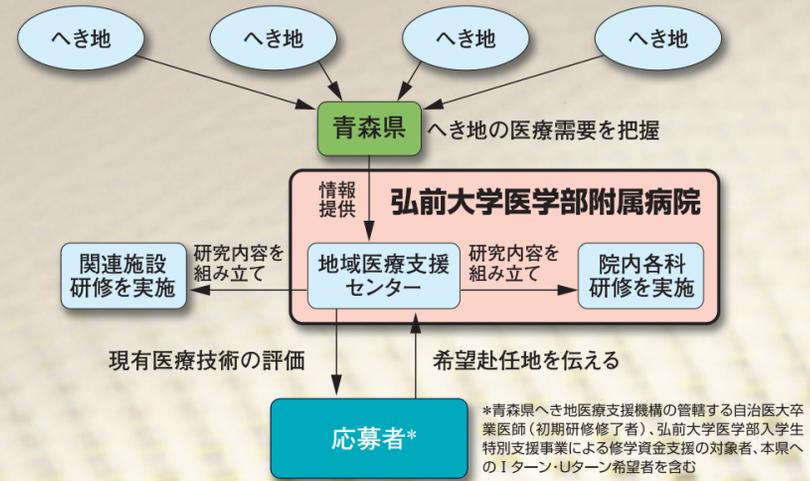
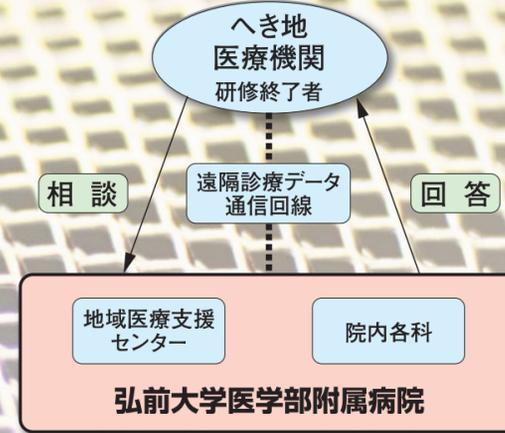


図-2



3 事業責任者

事業推進責任者：加藤 博之 (地域医療支援センター長、総合診療部長)

4 募集定員

へき地医療に意欲のある医師：2名